

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
 4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					内部評価	外部評価				内部評価	外部評価						
						委員1	委員2	相違	外部		コメント	委員1	委員2	相違			コメント
1	①	総務部	行政課	「附属機関の設置及び運営の基準に関する要綱」に基づく市民の市政への参画機会の拡大を推進	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・一層の啓蒙啓発に努めること  (委員2) ・公募委員数、付属機関数ともに伸びており、B評価は妥当。マニュアルを作成するところまで到達した点も安定化に繋がり、評価出来る。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・市民の意識を向上することは容易ではなく、地道な努力をコツコツと続けることが重要である。  (委員2) ・5年間の進捗度は右肩上がりでありB評価は妥当。今後は無作為抽出で選任という手段にも耐えられるような市民の市政参画への意識のレベルアップも同時進行で取り組めるとよい。	石原・大久保	
2	①	文化市民部	市民協働推進課	市民の市政への参画機会の拡大するため、新たな参画手法により懇談会などを開催	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・担当部署記入の内容に沿って引き続き取り組むこと。  (委員2) ・300名送付で応募1名という結果では「拡大」という目標に対して不足。	B	妥当	要検討	×	(委員1) ・担当部署記入の内容に沿って引き続き取り組むこと。  (委員2) ・無作為抽出という手法を用いて選任することは意義があるが、結果として応募が少ないままで5年間推移しているため、この手法に耐え得る市民レベルの向上を側面から図るべきと考える。	石原・大久保	2
3	①	こども未来部	こども未来館	子育て支援の充実を図るため、こども未来館の「ここにこサークル」のボランティアの育成と活動の活性化を支援	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・担当武将の今後の展開に具体策がない。毎年同じようなコメントが続いている。  (委員2) ・ここにこサークル数も大幅に伸び、ボランティア登録数も順調に増えている状況であり妥当。	B	要検討	妥当	×	(委員1) ・サークル新規開設後のアウトカムについて分析を行い今後の展開方針を定める必要はないか？  (委員2) ・子育て支援という観点においてここにこサークルを開設することのメリットは何か。スルーされないように積極的にアピールしないとなかなか情報が届かず、サークル開設まで到らない地域もある。地元からの要望も掘り起こしも重要と考える。	石原・大久保	2
4	①	環境部	環境政策課	市民とともにごみ減量や地球温暖化対策に取り組むため、市民意識の醸成と家庭での自発的な取組を促進	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・市民理解を得るのは容易ではなく、着実に事業を展開していると判断する。  (委員2) ・意識を醸成する啓発事業としての評価としては妥当。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・中長期の目線で市民に確実に浸透するような現状の取り組みが最も効果的と判断する。  (委員2) ・啓発事業としては評価できる。しかし、環境保全意識と現実のごみ減量意識が必ずしも繋がっていない。意識向上がごみ減量に直結するような施策が必要と考える。	石原・大久保	
5	①	産業部	農業支援課	遊休農地の解消と樹園地の再編を図るため、市民の主体的な運営組織づくりを支援	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・市民の健康づくりなど別の視点でのPRができないか？  (委員2) ・昨年度までと比べて取り組みの一定の進捗が図られたと考える。柿ワインの量産は可能か。需要は有りそうだし、豊橋の特産として定着させたい。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・遊休地を市民の健康づくりや、コミュニケーションの場所とするなど、別の発想で進展がかなわないかを検討してほしい。  (委員2) ・まだまだ緒についたばかり。新たな可能性を探ることで夢も広がる。ここはめげずに頑張ろう。	石原・大久保	
6	①	建設部	建築指導課	市民の生命や財産を守るため、自主的な耐震化の取組を支援するとともに耐震化に関する市民意識の醸成	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・多くの課題はあるが事業担当課としては地道に事業を展開しているため、この方向性で成果を上げてほしい。  (委員2) ・耐震化の必要性は理解しても改修、解体に繋がらなかったようだ。上乗せが27年まで延びたことで今年度の見送りにつながってしまったか？次年度は正念場になる。	D	妥当	要検討	×	(委員1) ・現状の取り組みを確実に進展させることが重要である。  (委員2) ・耐震改修率が上がらない理由はなぜか。上乗せ補助金を利用してはなお、お金の問題であれば一部屋だけ補強してそこに逃げ込むシェルター造成は難しいか。棟→部屋へ変更することで、まずは生命の安全を確保することが大切と考える。	石原・大久保	1
7	①	建設部	建築指導課	市民の健康と生活環境を守るため、吹付けアスベストに関する自主的な健康障害予防や生活環境保全の取組を支援	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・市民の健康に基大は被害を及ぼす可能性があり、当初の数値目標の達成に向けた努力が求められる。  (委員2) ・昨年コメントを支持します。目標値を下げるのは本末転倒と考える。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・市民の健康に基大な影響を及ぼす事業であり、市民への啓蒙は必要であるが、行政主導でリードするという発想も必要ではないだろうか。  (委員2) ・安易に目標数値を下げて数合わせをするのは不適切。アスベストがよく使われていた年代に建てられたものを中心に調べを進めて疑わしい建造物のリストを作るべきではないか。本気で取り組むなら建物カルテを作って一つずつ、つぶしていくと良い。少なくとも待っているだけで進まない状況から少しでも進展すると考える。	石原・大久保	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					外部評価					外部評価							
					内部評価	委員1	委員2	相違	外部	コメント	内部評価	委員1	委員2	相違			コメント
8	①	消防本部	消防救急課	市民自らが救命講習の指導者となるため、応急手当指導員や応急手当普及員を育成	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・市民等へのより積極的な呼びかけPRが必要ではないか。 (委員2) ・年度によって数値にバラつきがあるのは致し方ない面もあるが、しっかり達成して行きたい。	B	要検討	妥当	×	(委員1) ・より積極的な広報や参加者への粗品提供など、あの手この手で参加者を増やすという発想が必要である。 (委員2) ・数値目標を達成する年度が交互ということと普及員において消防団の人数が減少気味なのが気がかりである。ここをテコ入れして行こう。	石原・大久保	2
9	①	総合動植物公園部	自然史博物館	自然史博物館の活性化を図るため、館内展示等の案内、解説や資料整理に協力できる市民ボランティアを育成	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・目標の登録者を120%上回っており、A評価は妥当と考えますが、新規応募者が4名というのは残念です。しっかり上乗せして行きましょう。	A	妥当	妥当	○	(委員2) ・順調に活動者を増やすことができています。若い年齢層のボランティア活動参加者の拡充を図ってより内容を充実させていって下さい。	石原・大久保	
10	②	文化市民部	市民協働推進課	さまざまな分野の地域人材育成講座の開催により地域人材を育成	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・どのような人材を育成するかといったそもそもの考察が今後重要になる。 (委員2) ・実践型の研修を実施したのは評価できるが市職員のものとは人数合わせのような感もある。自治会向けの「まちづくり講習会」での受講者が昨年に続き、400人で当初の500人から大幅に落ち込んでいるので、ここはテコ入れが必要である。	B	要検討	妥当	×	(委員1) ・地方創生においても住民を含めた人材育成は非常に重要である。育成する人材像を明確にして、誰がその人材育成を担うかなどを、ネクストステップとして検討してはどうか。 (委員2) ・人材育成ということであれば実践型が効果的と考える。自治会役員向けの講座で人数が減少したのはなぜか。理由の検証が必要である。テーマは毎年変えてもよいのではないかと考える。	石原・大久保	2
11	②	文化市民部	市民協働推進課	地域の身近な課題に共に取り組むため、「住みよい暮らしづくり計画」の参加校区の拡大と体制づくりを支援	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・参加校区が目標に届かない状況が続いており、その根本的な原因についての分析が必要ではないか。 (委員2) ・職員がアドバイザーとしてサポートする方向は良いと思う。アピールしているにもかかわらず、参加校区が伸びないので抜本的な改善が必要と考える。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・参加校区の拡大に加えて、既存の参加校区における成果（アウトカム）を分析するなどして、事業の有用性を一層明確にすべきではないか。 (委員2) ・そもそも「住みよい暮らしづくり」というテーマが曖昧で、何のための事業なのか分かっていない。それぞれの年代で求める「住みよさ」の方向は異なることが参加が伸び悩む一因と考える。防災、健康などと異なり、このタイトルでは何でも有りになってしまうので、具体的なテーマを絞るべきと考える。	石原・大久保	
12	②	文化市民部	多文化共生・国際課	日本人と外国人が共生する地域づくりを目指し、地域団体等と多文化共生モデル地区事業を実施	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・事業の有用性は高いので、目標とされた数値が達成できない原因を解明すべきである。特に多文化共生は地元住民の側に積極的な取り組みが期待できない場合が多く、その意味で住民と外国人が交流できるゆいかな機会を考案する必要がある。 (委員2) ・外国人にとって必要な自治会活動であれば参加率は必ず上がると考える。不足部分は何かを検討する。防災訓練の参加者は54人で全体の30%ということなのでこのあたりを糸口を広げていくことは可能と考える。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・クレアの多文化共生部などとも連携し、事業の展開に外部からのアドバイスを求めてはどうか。 (委員2) ・安易に目標数値を上げ下げすることは無意味であり、コミュニティ成立のための必要な数値を割り出して設定すべきと思う。災害対策、ゴミ減量など、身近なイベントで必ず参加して欲しいものから取り組むことがよいと考える。	石原・大久保	
13	②	文化市民部	多文化共生・国際課	外国人児童の日本語の学習支援として、地域団体等とプレスクール事業やアフタースクール事業を実施	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・外国人児童と日本の児童が双方が楽しめるようなイベント的な企画も有用ではないだろうか。 (委員2) ・実施の主体は国際交流協会なので、応援団としてボランティア育成などの環境を整えることを手伝っているという立場からB評価としているのだと考える。しかし一蓮托生の関係であるので、当事者意識を持ち、効果を上げる道を共にしっかりと探していきたい。「効率的」とあるが、対象児童が一人でもいる限り、切り捨てることのないようにしてほしい。参加校がどんどん減っているのは気になる。	B	要検討	要検討	○	(委員1) ・外国人と日本の児童双方がスポーツやイベント等の交流を通じて人間関係を形成することが重要であり、子供自前で事業を一層効果的に推進すべきである。 (委員2) ・在日ブラジル人の数が減少している影響もあり、アフタースクール実施校が減っていると推察する。しかし、事業としてのニーズは高いと考えるので、必要な人が、一人でもいる所では確実に実施してほしい。「効率的」だけではない次世代につながる対応を望む。	石原・大久保	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					内部評価	外部評価				内部評価	外部評価						
						委員1	委員2	相違	外部		コメント	委員1	委員2	相違			コメント
14	②	福祉部	長寿介護課	ひとり暮らし世帯等への見守り及び買物支援などを行う高齢者安心生活サポート事業の拡充	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・事業目的を再度検討してはどうか。次事業としての必要性が不明確ではないだろうか。  (委員2) ・「委託料」を見て見方が変わりました。介護保険制度に上乗せしているのですね。サポーター一人で何人くらい見ているのかわかりませんが、見守りでしたら、善意で無償ですべきだし、貰い物も今は、宅配があります。この事業、有償です必要はないと考えます。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・介護保険との関係性を整理するなどして、本事業の意味を再度明確にし、見直しを図るべきである。  (委員2) ・「一人暮らし」世帯では範囲が広すぎます。少なくとも対象は、一人では動けないような生活困窮者に絞って下さい。今は有償ボランティアなので、無償にするが有償なら受益者負担にするべきと考えます。次の15番の事業と一緒にするのが良いかと感じています。	石原・大久保	
15	②	福祉部	福祉政策課	支え合いや助け合いの地域福祉を推進するため、担い手の育成とボランティア活動等の取組を促進	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・今後の発展のために、事業の具体的な内容を定めるべきではないか。  (委員2) ・災害ボランティアは目的が明確だが、地域福祉ボランティアは何をするのか。役割を明記してほしい。	B	要検討	要検討	○	(委員1) ・成果は上がっているが、非常に漠然とした事業であり、より事業の必要性を明確にして、新展開を図るべきではないか。  (委員2) ・No14、15の事業は統合できるのではないだろうか。No15の登録者が必要に応じてNo14の講座も受講すれば対応できる。同じ福祉部の事業であり、独立してする必要はないと考える。	石原・大久保	
16	②	こども未来部	保育課	保育環境整備のため、保護者等との協働による保育所や幼稚園の園庭芝生化を促進	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・3→2→1と毎年実施する園が減っているが何園まで予算化されているのか。増えても可能なのか。メリットは分かるが、デメリットはないのか。デメリットがあるから園の希望が増えないのではないかと。そこを取り除かない限り、希望する園は増えないと思う。	B	要検討	要検討	○	(委員1) ・他の事業と集約して組み立てたほうが良いのではないかと。一つの事業として評価対象とすることに違和感がある。  (委員2) ・現任、希望する園もなく、期限もなく、増やすことも目標でないなら、少々不思議な事業である。全園導入は目標とはならないのか。	石原・大久保	
17	②	健康部	健康増進課	地域コミュニティの主体的な健康づくり活動の活性化を図るため、健康のまちづくり事業への参加校区の拡大とプランづくりを支援	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・25年度の委員1と同じ  (委員2) ・校区に世話人がいないといつまでも軌道にのことはないので、市のサポート体制は必要だが独立して活動できるように校区でない事業として継続するのは難しい。	B	要検討	要検討	○	(委員1) ・25年度の委員1と同じ  (委員2) ・健康診断の数値を利用して不健康な校区に対して動いてはどうか。数値の改善が明確であり、やる気につながる。校区単位で導入すること自体は健康づくりの手法としてとそくわないような気もするが、事業として続けば国保事業の改善にもメリットは大と考える。	石原・大久保	
18	②	環境部	環境政策課 環境保全課	地域とともに生活環境や自然環境の保全及びごみ減量に取り組むため、530運動など地域の主体的な環境活動の活性化を支援	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・毎年17万人超の参加者がある大きな事業であり、日常の美化意識につながることを期待する。	A	妥当	妥当	○	(委員2) ・経費削減は評価したいが、全体の事業費が分からないので、A評価が妥当であるかどうかは判断しかねる。事業全体としては評価できる。	石原・大久保	
19	②	産業部	農地整備課	市有ため池の外來魚駆除を地元団体等の理解と連携を図りながら推進	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・自治会のみならず関連部課との連携、さらには教育現場との連携により目標を達成している取り組みは評価に値する。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・今後はため池は保身に止まらず、ため池利用者や地元自治会等の企画、協働により、これまでの取り組みを一步進めた有効利用も図るとよいと思われる。  (委員2) ・取り組み開始年度は、目標を達成することが出来なかった。しかしながら、外部評価コメントも参考にした改善努力と新たな取り組みにより、次年度より目標達成が可能となり、かつ継続していることは評価される。 ・関連部課との積極的な連携形成は、役所内の縦割りを見直す観点から行革という本取組のミッションにふさわしい。	諏訪・功刀	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度						5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					内部評価			外部評価			内部評価			外部評価			
					委員1	委員2	相違	外部	コメント	委員1	委員2	相違	コメント				
20	②	都市計画部	都市交通課	地域の公共交通環境充実のため、コミュニティバス運行に向けた地域の主体的な取組を支援	A	要検討	要検討	○	要検討	<p>(委員1) ・6地区合計での年間利用者数が増加し順調であるとする。唯一運行が遅れていた川北地区の住民の検討が始められ、最終目標年度の27年度での運行開始の目途が立ったと思慮する。</p> <p>(委員2) ・新たな地区での運行が開始され、合計6地区での利用者数は前年度の約1.5倍と増加したことは評価される。しかしながら、昨年度同様各地区ごとの個別利用者数が明記されておらず、また各地区でのニーズ内容も記載されていないため、各地区のニーズに合った運行がなされているか否か判断不能である。</p>	A	妥当	要検討	×	<p>(委員1) ・目標を上回る地区で運行を実施した。今後はさらなる利用促進策を講じ利用者の増加に努め、この事業の所期の目的を達成すること。さらに、地域の足の確保のためのコミュニティバス運行に止まらず、これを機に、地域の「社会力」を一層引き出し、住民が主人公となった住民自治の地域コミュニティが根付き、地域で支えあう風土を醸成することが望まれる。福祉などの幅広い分野において活用すべき絶好の機会と思う。</p> <p>(委員2) ・5年間で目標を上回る地区での運行を開始できた実績は評価できる。しかし、現状での実証運行から本格運行に移行するに伴い、運営主体となる地域運営団体の事業運営基盤や継続運営環境等を中長期的視点で可能な限り具体的に検討する必要があろう。</p>	諏訪・功刀	2
21	②	都市計画部	公園緑地課	地域とともに緑地や身近な公園環境の保全に取り組むため、地域の主体的な体制づくりや取組を支援	A	妥当	妥当	○	妥当	<p>(委員2) ・自己分析にもあるように、平成25年度から26年度にかけて、継続をしながら自治会の検証実施と、それに基づく改善への取り組みが期待される。</p>	A	妥当	妥当	○	<p>(委員1) ・はじめて導入した事業だから、25年度と26年度の自治会公園管理委託（累計20箇所）、公園アダプ制度（累計27箇所）の問題点を洗い出し、今後に繋げること。</p> <p>(委員2) ・基礎固めから始め、着実なデータ蓄積に基づき実績を重ね、目標を上回る成果を得たことは、達成度および実施プロセスも評価に値する。今後は、事業継続に必要な分析が中長期的観点から必要であろう。</p>	諏訪・功刀	
22	②	こども未来部	こども家庭課	若者の就労対策やひきこもり対策を推進するため、NPO法人との協働による取組を推進	A	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○	<p>(委員1) ・今後はより一層クライアントの立場に立って相談の質を高めるよう努められたい。</p>	諏訪・功刀	
23	②	教育部	生涯学習課	青少年の薬物乱用防止や子どもの暴力防止・人権尊重を推進するため、NPO法人との協働による取組を推進	—	—	—	○	—		B	要検討	要検討	○	<p>(委員1) ・全国的に深刻化し、喫緊の課題となっているので、今後はワークショップ、講演に止まることなく、一歩踏み込んだ実践的な対策が必要と思われるが検討されたい。</p> <p>(委員2) ・当該取組の効果目標には、薬物乱用やいじめ件数の減少が挙げられている。しかし、事業終了理由としては、多数の関連機関とのネットワーク形成が達成された旨が挙げられている。当初掲げた効果目標は短期間での達成困難な内容であることは認識できるが、組織形成はあくまでも目標達成の手法である。事業総括としては、取り組んだ内容のみならず、今後の展開に必要な分析内容も記載すべきである。</p>	諏訪・功刀	
24	③	企画部	シティプロモーション推進室	市民、事業者、行政が一体となった「オール豊橋」の体制づくり	B	妥当	妥当	○	妥当	<p>(委員2) ・本シートに記載されている過去の事業内容は、市民向け、多市民向け、対象不明と多様である。事業最終年度に向け、実施事業内容の整理と、本取組で収集した情報がどこでどのように機能し有効であったか分析すべきである。</p>	B	妥当	妥当	○	<p>(委員1) ・これまで一定の成果を上げてきたが、さらなる推進のためには、手法を含めた工夫が求められる。</p> <p>(委員2) ・目標数値設定の根拠が不明ではあるが（おそらく初年度の達成値を基準としているのであろう）、着実に目標が達成されていることは評価できる。しかし、5年間の総括としては、官民協働組織である「ええじゃないか豊橋推進会議」とシティプロモーション推進室との機能的で円滑な協働体制の維持継続、ならびに関連部課とのさらなる連携体制構築等についても展望すべきであろう。</p>	諏訪・功刀	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					外部評価					外部評価							
					内部評価	委員1	委員2	相違	外部	内部評価	委員1	委員2	相違	コメント			
25	③	企画部	シティプロモーション推進室	民間と連携した取組強化を図る仕組みづくり	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・目標に対する応募件数が少ない原因を掘み対策を講じることである。  (委員2) ・H27年度の目標値を低減した以外、昨年度の外部評価委員コメントをどのように認識したのか疑問を感じている。また、本年度は補助金応募団体が激減している理由も分析すべきである。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・手法の抜本的見直しが必要である。  (委員2) ・本取組の目標は、事業実施・推進の仕組みづくりや助成制度創設といった組織構築・制度設計であるにもかかわらず、取組期間中、それらに関する現状分析や自己評価は一度もなされていない、とりあえず補助金と認定事業を推進しようとの意図が推察されるが、採択すべき事業内容がNo.24の取組と明確に区別されていないため、応募時に混乱が生じているのではないかと、事業の具体的な内容を周知徹底するとともに、実施母体組織内での事業に対する理解と共通認識を再確認し、今後の進め方等改善策を検討すべきであろう。	諏訪・功刀	
26	③	企画部	シティプロモーション推進室	「アイラブとよはし運動」の推進による市民への情報発信と市民の愛着意識の醸成	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・市民の愛着意識を高めることは一朝一夕には出来ないと思われるので、目標が1%満たないが、毎年度それなりの事業を進めていることから、今の努力を戦略的に着実に続けていくことである。  (委員2) ・記載されている成果内容から判断して、企画のマンネリ化が目立つ。企画策定組織の内実是不明であるが、若年層の愛着度を高めるのであれば、企画段階に若年層の関与が必要ではないか。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・「豊橋市に住み続けたい」という市民が愛着する都市魅力とは何かという基本的なことを全庁的な共通認識のもとで再確認し、それに合わせた具体的な取り組みとして、若者層には彼らが創造する新しい企画による魅力づくりを、またそれ以外の層には伝統的魅力を繰り返し継続することである。蛇足ながら意見として、タイトルの「市民の愛着度の向上」は大きすぎると思う。私見であるが、市民が抱く都市魅力は、何はともあれ第一に市民生活が安定した施策が行われていることである。  (委員2) ・DOEEの起用により、20代での愛着度が増加したが一過性であった理由を分析し、今後の展開に生かす必要がある。また、若年層の愛着度増加については、取組の過程に子供たちをどのように巻き込んで行くか等の検討が不可欠であろう。	諏訪・功刀	
27	③	産業部	農業企画課	豊橋産農産物のブランド化を促進するため、「農産物ブランド化のためのプロモーション計画」の策定と推進	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・即効性はないが、今の努力を地道に続けていくことである。  (委員2) ・認知度向上や消費拡大の効果的な達成が出来たのであれば、それらが生産者の利益拡大に反映することが期待される。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・相手があることなので、消費者の側に立った種々の方策を常に試行し、ニーズの変化に対応しつつ、積極的に、活動的に、長期的に継続していくこと。  (委員2) ・どのような状況をブランド化と定義するか不明ではあるが、継続した普的な活動が必要であることは明らかである。この5年間、活動地域や内容を比較較つていたが、今後の展開として見直しがなされても良いのではないかと。	諏訪・功刀	
28	③	産業部	観光振興課	観光資源の魅力とPRの促進に向けて豊橋観光コンベンション協会等との連携強化	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・天候に左右され目標数には達成しなかったが、それでもトータルで過去最高の成果を得た。  (委員2) ・雨天対策により豊橋まつりの集客数が増加したことは評価できるが、開花状況に左右されない春まつりの実施に関しては対応が遅れている。 ・年間イベント参加者数の半数は豊橋まつりであり、残り半数の大半は炎の祭典と推測され、集客数に関してイベントが二極分化していると思われる。この状況への検討が必要であろう。	D	妥当	要検討	×	(委員1) ・壁に当たっているようであるので、手法を再検討する必要がある。  (委員2) ・野外イベントが天候に左右されることは当然であり、現状のように年間集客数の大半を2大イベントに依存している限り、集客数の確実な増加は困難である。集客可能なイベントの多様化と、「東三河の広域的な展開」と記載している手法の具体化として、他地域の観光資源も組み込んだ広域観光の展開が早急に検討されるべきであろう。	諏訪・功刀	1

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度						5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					外部評価						外部評価						
					内部評価	委員1	委員2	相違	外部	コメント	内部評価	委員1	委員2	相違	コメント		
29	③	産業部	観光振興課	首都圏活動や市内でのイベント開催など協働によるプロモーション活動の仕組みづくりと推進	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・目標は達成し、その努力は認められる。 (委員2) ・首都圏での物産展に関しては、購買層等を動員した新規の展開が期待される。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・このまま進めればよい。但し、この29の市外での活動の目標達成と25の民間団体のブランド認定や助成制度の目標未達成とが結びつかない。この原因を解明することが必要であると思われる。 (委員2) ・過去5年間のプロモーション活動内容と成果実績をできる限り具体的に可視化・分析することにより、有効な活動手法を構築することが今後のさらなる展開に望まれる。	諏訪・功刀	
30	③	産業部	みなと振興課	新たな市民参画手法による三河港の認知度の向上	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・イベント実施回数と参加者数が順調に増加したことは評価できる。さらなる認知度の向上に関して、メディアやSNSの活用等を検討すべきではないか。	B	妥当	妥当	○	(委員2) ・5年間の活動実績より、感覚的には三河港の認知度上昇が感じられるが、評価としては客観的なデータが望まれる。イベント参加者数以外で認知度の指標となる数値の検討が、今後の展開に必要であろう。	諏訪・功刀	
31	③	都市計画部	都市交通課	LRT都市サミットの誘致に向けて、とよはし市電を愛する会、商工会議所などと連携した取組	—	—	—	○	—		B	妥当	妥当	○	(委員1) ・豊橋市の「市電」は今やこの地方では有名であり、誇りうるものであるため、有効活用をした広がりのある展開を期待する。 (委員2) ・LRT都市サミット誘致という具体的な目標は達成された。また、サミット参加者数などから、豊橋の魅力が全国に発信できたこと内部評価されているが、ユーストリームのアクセスが300から判断して、もともと関心を持つ人々への情報発信に終始しているようにも見受けられる。	諏訪・功刀	
32	③	総合動植物公園部	動植物公園 自然史博物館	総合動植物公園、自然史博物館と周辺の社会教育施設との連携による「のんほいパーク100万人プロジェクト」の仕組みづくり	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・天候に左右されるものの、一定の努力は認められる。 (委員2) ・集客数増加に向け、毎年のイベント内容の検討・変更努力が集客数増に反映していることは評価される。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・子ども達をはじめ年齢層に関係なく、豊橋市民はもとより、市外の人々からも愛され、憩う場として、今以上に、一層夢のあるのんほいパークとなることを期待する。 (委員2) ・5年間にわたって、毎年の目標数値は達成できていないが、イベント内容は詳細に検討し実施している努力は、評価されるべきである。天候等の自然要因に左右されない集客数の増加を目指す活動が継続することを期待する。	諏訪・功刀	
33	④	財務部	資産経営課	指定管理者制度の新たな導入施設の検討と指定管理者制度の適切な運用管理	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・指定管理制度の導入において、管理業務のモニタリングや評価結果の公表等により指定管理制度の透明性を確保し、導入施設の拡大やサービス内容の拡充を達成していることは評価できる。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・今後この制度の良さを生かした取り組みをより進めて欲しい。但し、この制度の問題点もあるようであるので、常に検証すること。 (委員2) ・指定管理制度の機能や利点を市民に公表しつつ、制度導入施設を拡大する方針は評価に値する。今後も、制度の周知を図りつつサービスの向上や制度導入の拡充を期待する。	諏訪・功刀	
34	④	文化市民部	文化課	芸術文化交流施設のPFI手法による施設の供用開始	—	—	—	○	—		B	妥当	妥当	○	(委員1) ・PFI事業者のモラルハザードが起らないように、供用開始後の内容を常にチェックすること。 (委員2) ・本取組の過程においては、設定目標に沿って事業が進行・完了したことが評価される。今後は、当初目標である効率的・効果的な施設運営が期待される。	諏訪・功刀	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度						5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					内部評価			外部評価			外部評価						
					委員1	委員2	相違	外部	コメント	内部評価	委員1	委員2	相違	コメント			
35	④	文化市民部	文化課 市民協働推進課	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員1) ・継続事業で指定管理者が変わって、これまで働いていた職員を引き継ぐ場合、給与が減収になるなど、引き継ぎ職員へのしわ寄せが懸念されているなど指定管理者制度は利点ばかりではなく、問題点もあるので、常にチェックすること。  (委員2) ・取組対象施設の効率的・効果的な運営を実施するに当たり、まずは利用者の利便性向上を目的としたアンケート調査を実施し、その結果を参考にしつつ目標達成に取り組み成果を挙げた実績は評価できる。今後も、利用者の意見や利便性を勘案しつつ、従来の制度や概念、慣習（公共施設の利用料は無料とすべき等）にとらわれることなく行革に取り組まれることを期待する。	諏訪・功刀	
36-1	④	福祉部	福祉政策課 長寿介護課 障害福祉課	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直し	C	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
36-2	④	こども未来部	こども未来館	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
37	④	こども未来部	こども未来政策課	授乳やオムツ替えができる「赤ちゃんの駅」の民間協力店舗の拡大	A	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
38	④	健康部	健康政策課	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直し	A	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
39	④	環境部	業務課	ごみ収集業務の民間委託の拡大	B	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○	(委員1) ・ごみの指定袋化に伴い、次期プランへの課題を着実に検討していただきたい。	伊藤・富田	
40	④	産業部	農業支援課 商工業振興課	市民ふれあい農園の維持管理など民間活力導入可能性を検討	C	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
41	④	産業部	商工業振興課 農業企画課	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直し	A	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・職業訓練センターの教室利用回数が年々低下しているが、目標を見直すべきなのか、検討していただきたい。  (委員2) ・職業訓練センターの数値目標を検討されましたか。水の展示館の利用者は、毎年6000人以上いるのに廃止の意味は？	B	要検討	要検討	○	(委員1) ・次期プランへの課題で、貸室の利用回数を目標としないなら、どのような目標が考えられるのか、若しくは目標を廃止するのか方針を明確にしてください。  (委員2) ・職業訓練センターの数値目標を検討されましたか。水の展示館の利用者は、毎年6000人以上いるのに廃止の意味は？	伊藤・富田	
42	④	産業部	商工業振興課	次世代ものづくり人材の育成と事業者が参画しやすい環境づくり	D	妥当	妥当	○	妥当		D	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
43	④	産業部	産業政策課	環境貢献を目指す企業と連携した環境関連産業振興事業の促進	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員2) ・目標値の検討が必要では？	B	妥当	要検討	×	(委員2) ・目標値の検討が必要では？	伊藤・富田	4
44	④	建設部	土木管理課	道路等の維持管理などに関し、民間活力の導入可能性を検討	C	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員1) 効率化の推進という目標から具体的に再任用職員との仕事の配分を検討してもらいたい。	伊藤・富田	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度 外部評価					5年間の総括 外部評価					外部評価者	要検討分類	
					内部評価	委員1	委員2	相違	外部	コメント	内部評価	委員1	委員2	相違			コメント
45	④	建設部	土木管理課 住宅課	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直しと新たな導入施設の可能性を検討	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
46-1	④	都市計画部	公園緑地課	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直しと新たな導入施設の可能性を検討	D	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・公園管理内容の設定を具体的な維持管理とすることで指定管理者の受注が可能では	D	妥当	要検討	×	(委員2) ・公園管理内容の設定を具体的な維持管理とすることで指定管理者の受注が可能では	伊藤・富田	1
46-2	④	総合動植物公園部	動植物公園	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直しと新たな導入施設の可能性を検討	A	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
47	④	都市計画部	都市交通課	県境部や臨海部など、企業と連携した通勤手段の転換に関する社会実験の検討及び実施	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
48	④	消防本部	消防救急課	救命率の向上を図るため、AED等を配置した登録事業所等（救命の駅）の拡大	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
49	④	教育部	保健給食課	学校給食調理業務における民間活力導入の拡大	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・民間運営の特色が反映されることが望ましい	B	妥当	妥当	○	(委員2) ・民間運営の特色が反映されることが望ましい	伊藤・富田	
50	④	教育部	スポーツ課 生涯学習課	既存の指定管理者制度導入施設の効率的・効果的な運営の見直しと新たな導入施設の可能性を検討	D	妥当	妥当	○	妥当		D	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
51	⑤	総務部	行政課	市役所「じょうほうひろば」の市民協働に関する情報提供の充実	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・富田	
52	⑤	防災危機管理課	防災危機管理課	自主防災リーダーの育成	B	妥当	妥当	○	妥当		B	要検討	妥当	×	(委員1) ・防災リーダーの育成に、防災に関心の低い市民だけでなく、防災に関心の高い市民の参加も促していただきたい。	伊藤・富田	2
53	⑤	企画部	広報広聴課	多様なメディアを活用した広報活動の推進と双方向の情報受発信の効率的・効果的な仕組みの充実	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・ホームページのアクセスがかなり増えているのは、見やすさがかなり影響していると考えられる。市民一人当たり換算しても1人30回以上のアクセスがあったことになり評価できる。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・SNSを使ってさまざまな分析が可能となっているため、ホームページアクセスだけではなく、SNSに関する指標を設定してはどうかか。 (委員2) ・多様なメディアとあることから、ケーブルテレビ活用状況の記述が欲しい。	世羅・村松	

書類評価結果（取組項目別）

※検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					外部評価					外部評価							
					内部評価	委員1	委員2	相違	外部	内部評価	委員1	委員2	相違	コメント			
54	⑤	文化市民部	市民協働推進課	地域のまちづくり拠点施設となる校区市民館の情報の受発信機能の充実	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・49館分のパソコンの予算が確保できれば達成という意味ですが、目標が予算確保という理由がよくわかりません。予算確保できていなくても、意識啓発などを行っているため、ある程度の計画達成はできているのではないかと考えられます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・目標設定で行政内部の問題のように見える予算確保というものはやめたほうがいいと思います。地区ごとの啓発をされているようなので、地区ごとの利用度合いとか意識度合いなどが指標化できれば、市民としてもわかりやすいと思います。  (委員2) ・今後はより一層の各市民館の特色を発信できるような指導を願う。	世羅・村松	
55	⑤	文化市民部	市民協働推進課	男女共同参画の活動に関するホームページの充実	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・当初予定どおり実施できており、分析等もされていると考えます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・今後の取組指標としては、ホームページを見てイベント参加や来館されている方を把握したり、男女共同参画が推進され、市民のなかに浸透しているかという視点をもって目標設定すると、よりよい指標になると考えられます。  (委員2) ・目標達成のための取組みが本来の男女協同産面にどのように反映されているのか不明。今後に期待する。	世羅・村松	
56	⑤	福祉部	障害福祉課	障害者施設授産製品情報に関するホームページ等の充実	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員1) ・ホームページの運用であれば、他の取組と同様にホームページのアクセスや解析結果などを参考に目標設定してはいいかがでしょうか。  (委員2) ・ホームページの更新はポイントである。更新のための仕組みを具体化する必要があろう。	世羅・村松	
57	⑤	こども未来部	こども未来政策課	子育て支援に関するホームページ等の充実	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・利用は順調であると考えられます。  (委員2) ・アクセス数のみでなく、ホームページがどのように効果があるかとらえるようにしてほしい。	A	妥当	妥当	○	(委員1) ・アクセス数のほかにアクセス解析などを行って、目標設定を行えばいいと考えます。  (委員2) ・今後はアクセス数のみの目標達成と短絡的にとらえるものでないことを希望する。	世羅・村松	
58	⑤	環境部	環境保全課	光化学スモッグ発令に関する関係部局との連携強化と市民への迅速な情報提供の体制づくり	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・登録者数が増加したのでBとしたとコメントがあるが、36000人を達成したからBとした、というコメントになると考えられる。ただ、目標値は達成しているので妥当とした。  (委員2) ・英語・ポルトガル語の登録者数が少ない理由もあり、「B」の評価は甘いと考えられる。	A	妥当	要検討	×	(委員1) ・過去の評価が要検討ばかりとなっているが、最終目標値は達成できているので妥当とした。なお、目標値の設定であるが、36000人が多いのか少ないのかわかりにくいので、全人口のうち何%ぐらいが登録すれば、担当課として妥当と考えているのか、考え方を踏まえて目標設定するとわかりやすいと考えられます。  (委員2) ・地域の特性から光化学スモッグの発生の可能性は低いと思われる。人的被害が発生していないので「A」とすることに疑問あり。	世羅・村松	3
59	⑤	産業部	農業委員会	農業委員会活動に関するホームページの充実	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・取組内容は記述を見ればわかりますが、数値的な記述がないためイメージがつきにくいです。ページの充実を目標とするため数値目標の設定はしないとありますが、充実度合いの記述がありません。また、今後の展開も、より具体的に記載してください。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・数値目標が設定しづらい事業かと思いますが、目標ととらえずに、どのぐらいの件数を処理しているのか、交流会や相談会などのぐらいの人がきているのかはわかるように、数値を意識すべきと考えます。	世羅・村松	
60	⑤	産業部	商工業振興課	勤労青少年ホーム活動に関するホームページの充実	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・目標数値を達成しているため妥当としました。ただ、経年比較をするとH24があがり、H25で一度下がり、H26で再びアクセス数が増加していますので、その理由を分析して、結果を記載したほうがいいと考えます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・リニューアルの内容も詳細に記述いただき、定性的な成果として記載したほうがわかりやすいと考えます。	世羅・村松	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度						5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					内部評価			外部評価			内部評価	外部評価					
					委員1	委員2	相違	外部	コメント	委員1		委員2	相違	コメント			
61	⑥	文化市民部	市民協働推進課	市民活動団体を資金面で支援するための補助金や交付金制度の見直し	D	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・制度を見直しているにもかかわらず、募集件数が減少していることは、抜本的に見直し必要があるのかもかもしれません。	D	妥当	妥当	○	(委員1) ・補助金に交付金制度の全体像がよくわからないので、全体で何件あって金額がいくら出している、そのうちのどれくらいを見直しているかという視点があればわかりやすいと思います。	世羅・村松	
62	⑥	文化市民部	文化課	市民の多彩な芸術文化活動や創造活動に対する効果的な資金的支援	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・盛況であることがよくわかります。	B	妥当	妥当	○	(委員1) 文化芸術関係は、市民の間にどのように浸透しているかを数値化できれば望ましいです。全市民のなかでの参加率や、リピート率、実質的な参加者数（同じ人がいろんなイベントに来ていないか）などの数値が把握できればよいと思います。	世羅・村松	
63	⑥	文化市民部	市民協働推進課	市民協働推進基金（トヨッキー基金）の新たな寄附手法の検討	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・数値として向上しているため妥当としました。 (委員2) ・基金の目的が明記されているのか？目的が明確であれば増えると考えられる。	B	妥当	要検討	×	(委員1) ・基金なのでどのくらいを集めることを考えているのか、集めた資金をどのように活用するのかなど、基金の全体的な観点で目標設定してもいいかと思えます。 (委員2) ・募金の場所を増やすことが目標ではないはず。	世羅・村松	4
64	⑥	文化市民部	市民協働推進課	協働を推進するための職員のサポート体制の強化	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・取組状況については評価できるので妥当としました。 (委員2) ・校区の防災訓練に市職員がサポートをしてくれることに感謝している。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・協議の場を設定することにより、どのような結論が得られたのか、どのような方向性になっていくのかなど、場の設定だけではなく、将来の方向性に関するものも目標的に設定すると、よりわかりやすいと思います。 (委員2) ・地域担当制度の導入は市民と市役所の協働として、地域の住民は有効と考えている。今後も期待している。	世羅・村松	
65	⑥	文化市民部	市民協働推進課	市民協働に関する職員研修の充実	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・実施方法を変更され、盛況な状況がうかがえますので妥当としました。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・積極的な職員の参加状況がよくわかりますが、このような研修は全職員のうち何%受講すれば良いとするのか、また、参加者の理解度合いなどを数値目標とすればよりわかりやすいと思います。 (委員2) ・職員であると同時に市民でもある意識向上は市民の実情を知る上で有効である。	世羅・村松	
66	⑥	環境部	温暖化対策推進室	地域密着型の地球温暖化対策に取り組むため、市民、事業者との一体的な取組体制を強化	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・順調な状況がよくわかります。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・特にコメントありません。	世羅・村松	
67	⑥	産業部	商工業振興課	勤労青少年の自主活動に関する支援の強化	D	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・どのような活動を実施しているか定かではないが、会員数がH23からみると減少していることから、抜本的な見直しが必要ではないかと思えます。 (委員2) ・努力されていることは理解している。会員数増には広く協力を求める必要がある。	D	妥当	妥当	○	(委員1) ・取り組み自体の抜本的な見直しが必要と考えます。 (委員2) ・努力されていることは理解している。会員数増には広く協力を求める必要がある。	世羅・村松	
68	⑥	都市計画部	都市計画課	二川景観形成地区の住民団体との協定づくりや景観形成地区整備計画の改訂	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・順調であることがよくわかります。 (委員2) ・豊橋の誇れる財産である。今後の対策に期待したい。	A	妥当	妥当	○	(委員1) ・ほぼまちなみ形成も完了間際と考えられますが、全体計画のなかで何割くらい進捗しているのかという視点が目標であればわかりやすいと思います。	世羅・村松	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					内部評価	外部評価				内部評価	外部評価						
						委員1	委員2	相違	外部		コメント	委員1	委員2	相違			コメント
69	⑥	都市計画部	都市交通課	コミュニティバス運行に対する効果的な支援	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・取り組みとしては計画どおりであるため妥当としました。  (委員2) ・高齢化社会が進む中、コミュニティバス運行は高齢者にとって唯一の足となる。取り組みのさらなる推進を望む。	A	妥当	妥当	○	(委員1) ・コミュニティバスなので利用者数の増加という視点ではないと思いますが、カバーする人口数（割合）とか地域数（割合）など、公共交通がどのくらい確保できているかという視点での目標設定を行うと、よりわかりやすいと思います。	世羅・村松	
70	⑥	教育部	美術博物館	地域財産である二川宿本陣資料館の地域との協働に向けた環境づくり	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・目標設定で駒屋の開館を目標とするため数値目標の設定はなし、と記載されているが、成果の箇所が開館に関する記述がありません。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・駒屋の開館との関係がよくわかりません。	世羅・村松	
71	⑦	総務部	人事課	職員採用に関する制度の充実	B	妥当	妥当	○	妥当		B	要検討	妥当	×	(委員1) ・職員採用に関する状況はこれまでと違って市役所にとって困難な状況になっている。民間企業と比較してやりがいのある魅力ある職場であることをより積極的にPRして優秀な人材確保の手立てを講じる必要がある。  (委員2) ・大手企業の囲い込みが強まる中、同じ学部、学科から採用されている職員の後輩への声掛け、説明で少なくとも親近感を持ってもらうことは可能。現在このような手法は流行らないのかもしれないが、意外と有効とも考える。	石原・大久保	2
72	⑦	総務部	人事課	「人材育成基本方針」の改訂	—	—	—	○	—		B	要検討	妥当	×	(委員1) ・時代に対応した人材育成方針の策定が求められる。  (委員2) ・今後は特に、女性職員の育成、能力活用を求める。埋没させてはもったいない。	石原・大久保	2
73	⑦	総務部	人事課	職員のやりがいを高める人事評価と適正な処遇の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・女性職員の働き方も含めて男女問わず家庭生活との両立が可能な方向で制度を構築してほしい。庁内人材バンク制度が軌道にのることを期待する。	B	要検討	妥当	×	(委員1) ・時代の変化を取り込んだ人事制度の確立が期待される。  (委員2) ・新しいプロジェクトが生まれる際、人材バンクとともに課を超えた「この指とまれ」方式で広く庁内からやりたい人を集めてはいいかがか。専門性とともに、趣味で深めている分野において潜在化している能力を発掘でき、活かせると考える。	石原・大久保	2
74	⑦	総務部	人事課	給与等の適正化	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員2) ・時間外勤務縮減という課題にたいし、週1でノー残業Dayを設ける。早朝勤務等、働き方の多様化も含めて時短を図る。	石原・大久保	
75	⑧	総務部	行政課	組織・機構の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・子どもに関する窓口を一本化したのは評価できる。更に、関係各課との横ぐしをしっかりと通して連携してほしい。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・時代の要請や市民ニーズに合致した組織編成に向けて一層の取り組みを期待する。  (委員2) ・これからは特に女性、子どもはキーワードとなる。子ども、老人に比して女性に関しての取り組みは遅々としている。女性の地位向上、能力活用などは待たない。市民協働推進課から男女共同参画部門を別名称にして独立させ、女性を輝かせる方を市として集約してほしい。これは時代の要請でもあると考える。	石原・大久保	
76	⑧	総務部	人事課	「定員適正化計画」の計画的な執行	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・同一職種、同一賃金になっているか不明だが、多様な任用形態は有効と評価する。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・引き続き再任用、嘱託、利臨時、外部委託などの諸手法を適切に組み合わせた職員数の適正管理が期待される。  (委員2) ・現職員が過度な勤務超過にならないように配慮しながら進めてほしい。	石原・大久保	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					内部評価	外部評価				内部評価	外部評価						
						委員1	委員2	相違	外部		コメント	委員1	委員2	相違			コメント
77	◎	総務部	情報企画課	情報システムの開発・運用など広域共同処理の可能性を検討	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・村松	
78	◎	総務部	人事課	他団体との人事交流や職員研修の合同実施	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員2) ・職員の参加状況にも配慮する必要がある。	伊藤・村松	
79	◎	企画部	政策企画課	東三河広域協議会事務局の組織体制の充実	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・村松	
80	◎	企画部	政策企画課	三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）の組織体制の充実	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・村松	
81	◎	文化市民部	市民協働推進課	「どすごいネット」などを活用した東三河地域の市民活動情報の充実	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・協働アンケートの分析結果を参考にして情報発信手段を検討されたい。 (委員2) ・減少の分析をし、目標設定の見直しをする必要がある。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・今後に向けた課題を積極的に実践していただきたい。 (委員2) ・減少の分析をし、目標設定の見直しをする必要がある。	伊藤・村松	
82	◎	福祉部	国保年金課	国民健康保険事業の広域化	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・村松	
83	◎	健康部	健康政策課	東三河地域の医療体制の確保に向けた連携強化	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・もとの目標設定で記載している課題を解決することが難しいのか、さまざまな取り組みをされているにもかかわらず、D評価とされている。完全に解決することが難しいことを取り組み目標に掲げることは再考の余地があると考えます。 (委員2) ・東三河広域連合の協議開始を待つことにより、設定した目標である東三河8市町村による活動が遅れていることは問題である。しかし、医療体制の確保は喫緊の課題であり、豊橋市単独あるいは一部地域の連携による活動は必要不可欠であり、評価されるべきである。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・取り組みが大きなものであり、豊橋市単独で取り組めるものでもないと感じます。 (委員2) ・東三河広域連合と関わりにより、当初目標の達成が困難となっていることは、不可抗力であるとも言える。しかし、取組内容が喫緊の課題であることより、豊橋市単独あるいは一部地域での先行活動は必要であり、今後も積極的に実施すべきであろう。また、かかりつけ医の推進に関連した市民の意識啓発は、市単独でも率先して実施すべきである。	世羅・功刀	
84	◎	産業部	産業政策課	東三河地域の企業誘致活動に関する相互協力と連携強化	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・特にコメントありません。 (委員2) ・東三河5市による広域連携での企業誘致説明会実施が到達目標として設定されているため、評価としては「妥当」とすべきであろう。しかしながら、説明会を実施する最終目的は企業の定着である。説明会にどのような企業が何社参加したのか、その際の手応えは等、さらに豊橋市単独開催と東三河5市連携開催との相違は何か等、最終目的に向かった分析と評価も必要であることから「要検討」とした。	B	要検討	要検討	○	(委員1) ・取り組み目標が説明会の開催だけでは小さすぎると感じるため、企業誘致の成果は中長期にわたることはありますが、関心が高まっている企業とが、最終成果である誘致に関連する目標を設定したほうがよいと考えます。 (委員2) ・5年間の達成目標が首都圏における東三河5市による企業誘致説明会の実施であるとしても、説明会開催はあくまでも手法であって最終目的ではない。最終目的である企業の誘致定着を促進することが今後の課題であり、そのために必要な情報収集や分析・評価は、これまででも可能であったと推測される。今後は、広域での誘致活動が持つ利点を的確に分析・把握し、企業誘致と定着に繋げて行くことが期待される。	世羅・功刀	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					内部評価		外部評価			内部評価	外部評価						
					委員1	委員2	相違	外部	コメント		委員1	委員2	相違	コメント			
85	◎	産業部	産業政策課	東三河地域の産業活性化に向けたサイエンスクリエイトの広域的な体制強化	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・努力をされて利用件数が増加されているものと考えます。できれば大幅に増えている理由も記載すればわかりやすいです。  (委員2) ・東三河5市の連携に替わり、東三河県庁を初めとした広域連携により各種セミナーや研修に多数の参加者を集めた実績は評価される。さらに、次年度に向けて広域連携による人材育成を目指した組織の設立により、事業の拡充が期待される。	D	妥当	妥当	○	(委員1) ・26年度は目標達成できているためD評価でなくてもいいように思いますが、今後は、現在の利用状況やH26の利用件数が増加した理由などを十分に分析して、目標値を設定する必要があるります。  (委員2) ・取組途中で実施組織の解散・新規設立があり、設定目標が到達できない状況ではあるが、新設組織は効果的に機能しているとは評価される。しかしながら、設定目標はサイエンスコアの利用件数のみであるため、実際の参加人数増加率、参加者の満足度調査、研修内容の波及効果等本来評価されるべき要素を抽出し、次期プラン策定のために必要なデータとして分析することが、5年間の総括として必要であろう。	世羅・功刀	
86	◎	産業部	みなと振興課	三河港振興会における東三河4市及び商工会議所との連携強化	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・特にコメントありません。	B	妥当	要検討	×	(委員1) ・職員派遣数の目標値よりも、派遣された職員がどのようなパフォーマンスを発揮しているのかという観点の目標設定がわかりやすいと思います。  (委員2) ・5年間の経過のみを見ているため、的確な判断はつきかねるが、「他三市派遣」に対して豊川市と田原市のみ派遣をしている状況で、広域の組織強化、連携強化が実現できているか疑念を感じる。	世羅・功刀	3.4
87	◎	産業部	農業企画課	農産物輸出の推進に向けた連携強化	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・取組が順調であることがよくわかります。  (委員2) ・販売品目の拡充、販路や購買層の拡大等、一層の取組努力は評価される。その一方で、TPPへの対応も助案した取組として生産者からの意見収集に努め、輸出促進に対する共通認識の形成に注意を払う必要がある。	B	妥当	要検討	×	(委員1) ・豊橋は農業粗生産高が日本でも有数の場所であることから、さらに取り組みを進めてほしいです。  (委員2) ・安全性を始めとする高付加価値食品類の輸出には、競合相手も多く多大な努力が必要とされている。豊橋田原の連携が持つ強みを的確に把握し、今後の取組に生かして頂きたい。さらに、本取組に対する生産者の認識と意識も把握し、良好な協働体制の継続維持を期待する。	世羅・功刀	2
88	◎	消防本部	通信指令課	消防通信指令業務の広域共同運用の拡大	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・コメントがすべて前年度と同じであるが、もう少し内容を掘り下げて記載していただきたいところです。また、もともとの金額が不明ですが、年間4百万円も引き下げることが可能ということは、田原市加入があるにしても、それまでの金額の妥当性が疑われるところと感ずります。  (委員2) ・設定目標である削減額が絶対値のため、分母となる全体事業費の増減に左右され評価が困難である。総費用に対する削減割合（%値）を年次比較すべきである。	B	妥当	要検討	×	(委員1) ・田原市加入により引き下げられたので、当初の目的が達成されたということになりますでしょうか。そうすると、当該取組項目は、今回のプランには掲載されないという理解です。  (委員2) ・取組初年度に田原市の加入が達成されたのち、何らの新規目標設定もなく行革としての取組に相当する疑問を持つ。また、達成目標として掲げている削減額が絶対値のため、分母となる全体事業費の増減に左右され評価が困難である。総費用に対する削減割合の年次比較を行う等の工夫が内部評価には必要である。したがって、当初設定した削減額目標と、実際の削減額が同率の削減が否か不明のため、評価不能である。	世羅・功刀	5
89	◎	消防本部	通信指令課	消防救急無線のデジタル化に向けた東三河5市の共同整備の検討、実施	-	-	-	○	-		A	妥当	妥当	○	(委員1) ・事業期間が不明ですが、全体事業費がいくらで、進捗状況はどのぐらいなのかわかるような目標設定を行えばよりわかりやすいと思います。  (委員2) ・東日本大震災発生は不測の事態であるが、国庫補助金措置に迅速な対応が可能であったことは評価に値する。今後は、有効かつ効率の良い運用を期待する。	世羅・功刀	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					内部評価	外部評価				内部評価	外部評価					
					委員1	委員2	相違	外部	コメント	委員1	委員2	相違	コメント			
90	⑩	総務部	行政課	監査機能の見直しなど内部統制機能の充実	D	要検討	妥当	×	(要検討) (委員1) ・努力しているにも拘わらず、不正や誤謬を防ぐことが出来なかった原因の究明が肝要で、現行の方策の再検討が必要である。	B	要検討	妥当	×	(委員1) ・一定の努力は大いに評価するが、さらに徹底するためには、集合研修の充実とともに、あわせて、職場での日々の研修、すなわち、上司、先輩職員による日々の実戦での現任訓練と、職員同士がお互いにチェックしあうチェック体制が必要である。	諏訪・富田	2
91	⑩	企画部	政策企画課	総合計画の進行管理とわかりやすい事業評価の実施	B	妥当	妥当	○	妥当	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・行政評価の意義を一人ひとりの全職員に常に浸透させることが肝要。さらに、日々の業務を進め、調書を作成する上で、予算の執行と行政評価が連動する一工夫が必要と考える。	諏訪・富田	
92	⑩	会計課	会計課	支出関係書類が法令・予算に違反していないかどうかの厳格な確認	D	妥当	妥当	○	妥当 (委員1) ・集合研修も必要だが、あわせて、日々の職場研修、すなわち、日々業務を進めながら先輩職員のチェック体制が必要である。 (委員2) ・不備率は、目標をクリアしているが、重大な誤りの削減等をどのように見つけ出すか?は、検討が必要では?	D	妥当	妥当	○	(委員1) ・職員がお互いにチェックしあうシステムの確立が必要である。 (委員2) ・不備率は、目標をクリアしているが、重大な誤りの削減等をどのように見つけ出すか?は、検討が必要では?	諏訪・富田	
93	⑩	監査	監査委員事務局	適法性、効率性、妥当性の観点からの各部局の事業についての一層厳正な監査の実施	B	妥当	妥当	○	妥当 (委員1) ・学校監査は校数が多いが全校継続して行うべきである。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・定例監査は双方がマンネリにならないように、常に緊張感を持って行うことである。また、一人職場の学校事務の不祥事が他の自治体の例では多発し痛弊されている。学校監査こそ全校必要である。	諏訪・富田	
94	⑪	防災危機管理課	防災危機管理課	危機発生時の体制強化と「危機管理指針」等の整備	B	妥当	妥当	○	妥当 (委員1) ・防災危機管理課職員のみではなく、庁内全ての各課、職員が取り組む必要がある。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・全庁的取り組みが必要である。	諏訪・富田	
95	⑪	関係部局	防災危機管理課	想定危機事案ごとのマニュアル整備と体制強化	B	妥当	妥当	○	妥当	B	妥当	妥当	○		諏訪・富田	
96	⑫	総務部	人事課	職員の給与支給明細書へ有料広告掲載など	A	妥当	妥当	○	妥当	A	妥当	妥当	○	(委員2) ・外部評価コメントにもあるように、アイデアは面白いが広告主が集まりにくいのであれば別の方策も検討すべきではないか。特に、給与支給明細書が紙媒体からデータに一部移行することが決定しているのであれば、他の面白いアイデアを期待する。	石原・功刀	
97	⑫	財務部	納税課	滞納整理に関する広域共同処理体制の整備	A	妥当	妥当	○	妥当 (委員2) ・東三河広域連合に事業移管をするに当たり、準備段階での検討必要事項を、今までの実施経験に基づき明確にしておくことが期待される。	A	要検討	妥当	×	(委員1) ・今後の目標数値については環境の変化などを加味して再検討を行う必要がある。 (委員2) ・今後は実施組織が異なることより、過去5年間の取組内容を活かしつつ、新組織内での連携体制強化とこれまでの実績維持が期待される。	石原・功刀	2
98	⑫	財務部	納税課	徴収業務や納付窓口の充実と口座振替の加入促進による収入率の向上	B	妥当	妥当	○	妥当 (委員2) ・すでに収入率が92.8%と高い値のため、劇的な増加は数値的に困難である状況下で、昨年度を〇、5ポイント上回ったことは努力の成果と評価できる。休日の相談体制は、市民に周知徹底しているであろうか。	B	要検討	妥当	×	(委員1) ・目標市税収納率については他市の状況等も踏まえて見直すこと。 (委員2) ・平成28年度からの東三河広域連合による事業推進において、これまでと同様の取組が可能か。特に、休日開庁による相談体制維持は新組織体制下でも継続可能か等、検討が必要であろう。	石原・功刀	2

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度						5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					外部評価						外部評価						
					内部評価	委員1	委員2	相違	外部	コメント	内部評価	委員1	委員2	相違	コメント		
99	⑫	財務部	資産税課	固定資産地理情報システム導入による適正課税と収入の確保	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・次年度の目標値が年度毎に大きく変化しているため、GISデータに基づいているとは言え、設定の判断基準を記載することが望まれる。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・固定資産税の捕獲率の向上については、引き続き、課税の公平の観点から、厳密厳格な取り組みが求められる。 (委員2) ・当初目標値の設定理由を、再度検証すべきであろう。固定資産税の適性課税は、市民にとっても有益であるため、できるだけ客観的なデータに基づく調査により見直しを行い、そのプロセスを市民に周知徹底すべきであろう。	石原・功刀	
100	⑫	財務部	財政課	全庁的な有料広告掲載の促進と自動販売機の貸付方法の見直しなど	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・HPのバナー広告については、HPへのアクセス数が少なければ広告主は現れない。対象施設のHP内容を見直し、アクセス数の増加を図る等、効果的な広告媒体であることの情報発信にも注力する必要がある。	B	妥当	妥当	○	(委員2) ・自主財源確保のために、さまざまな発想と手法により目標達成を目指す姿勢は評価できる。今後は、新たな発案による自主財源確保が期待される。	石原・功刀	
101	⑫	財務部	資産経営課	未利用地の売却による売却収入の確保	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・民間事業者への業務委託（売却可能性調査）を導入することにより未利用地の売却が本年度は促進されたことは評価できる。民間の持つノウハウを活用し、実質的な官民の役割分担を効果的に進めることにより目標達成を目指すことも行革の手法と考えられる。	B	要検討	妥当	×	(委員1) ・普通財産等の売却は環境や状況の変化を察知した時機に合致した目標額の設定が期待される。 (委員2) ・5年間の取組により、容易な売却が可能未利用地は、すでに売却済みとなっている。今後は、売却困難な土地の処理に民間事業者との協働により取組むことが期待される。	石原・功刀	2
102	⑫	財務部	債権管理課	債権の適正な管理	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・様々な手法により収入率を向上させる努力は重要である。最終年度も取組の継続が望まれる。	B	妥当	妥当	○	(委員2) ・5年間の取組において、受託債権の一元管理システム開発や担当職員の研修実施等、様々な手法で成果の蓄積を図る試みは評価に値する。今後は、回収困難案件への対応が主要業務となるであろうが、各所管課との連携により継続した取組が望まれる。	石原・功刀	
103-1	⑫	企画部	広報広聴課	広報紙への有料広告掲載など	A	妥当	妥当	○	妥当		A	要検討	妥当	×	(委員1) ・今後の目標額の設定に際しては、この5年間の実績や環境状況の変化を斟酌する必要がある。 (委員2) ・自主財源確保の手法として有料広告掲載を取り上げ、順調に成果を伸ばしていることは評価できる。広告媒体である広報とよほしや豊橋市HP自体を魅力あるものにし、市民のアクセスを増加させないと広告依頼の減少に繋がるであろうから、媒体作成部課との連携も今後は必要となるであろう。	石原・功刀	2
103-2	⑫	都市計画部	まちなか活性化課	市有地売却による自主財源の確保	-	-	-	○	-		B	要検討	妥当	×	(委員1) ・状況の変化を斟酌して今後の目標を定める必要がある。 (委員2) ・未利用地の処理法として、売却以外の方法で市民サービスに供することが可能であれば成果として評価可能である。	石原・功刀	2
104	⑫	文化市民部	文化課 多文化共生・国際課	豊橋市国際交流協会など団体の自主財源の確保と自立度の向上	B	要検討	妥当	×	(要検討)	(委員1) ・本評価の最終年度も目前に控え、事業実施の具体的な方策や事業目標が、必ずしも明確ではない。本事業実施の成果を明確に評価できるアウトカム指標を設定し、プロセスやアウトプットベースでの諸目標設置という手法からの脱却を図るべきではないか。 (委員2) ・個人会員数はやや持ち直したが、団体会員数は大幅に減少している。この原因は、会員制度変更によるのか。一方、豊橋文化振興財団は市以外の補助金を多数確保しており、次年度も引き続き確保できていると望まれる。	B	要検討	要検討	○	(委員1) ・自主財源の確保はその時の状況に大きく左右される事業であり、今後に向けた計画の策定においても、状況の変化を適確に把握して行う必要がある。 (委員2) ・各種団体の自主財源確保の手法としては、会員数増加と公的補助金や企業協賛金確保が常套である。会員数の確保が困難な現状では、補助金確保以外の方策にも取り組む必要が喫緊の課題である。	石原・功刀	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
 4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					外部評価					外部評価							
					内部評価	委員1	委員2	相違	外部	内部評価	委員1	委員2	相違	コメント			
105-1	⑫	福祉部	福祉政策課	地域福祉センター使用料の見直しなど	B	妥当	要検討	×	(要検討)	(委員2) ・現状の使用料における課題に対して、どのような見直しを行った結果なのか、取組内容の記載が必要である。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・検診審査受信料の自己負担について、今後どのように取り組むのかを検討する必要がある。  (委員2) ・健康診断受診料の一部自己負担金設定に関し、市民サービスの低下に繋がると判断されることが推測される。市民の意見を聴取する等の事前対応が必要ではないか。自主財源確保は行政として必要ではあるが、市民サービスの低下を引き起こさないよう注意して実施すべきである。	石原・功刀	
105-2	⑫	子ども未来部	子ども未来館	子ども未来館のホームページハナー広告掲載	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・ハナー広告を募集する自治体は非常に多く、その中で豊橋市に発注がなされるには何をPRポイントにするかを検討する必要がある。  (委員2) ・HPへのハナー広告獲得に向けての取組姿勢に疑念を感じる。この間の外部評価コメントには、有用かつ具体的なアドバイスが盛り込まれているにもかかわらず、自己評価や年次展望には何らの戦略的取組も提示されていない。しかし、毎年広告収入目標値に6万円を設定している論理的根拠を記載して頂きたい。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・ハナー広告を募集する自治体は非常に多く、その中で豊橋市に発注がなされるには何をPRポイントにするかを検討する必要がある。  (委員2) ・子ども未来館のHPデザインでは、ハナー広告の位置が最下段であり、何度もスクロールを繰り返さないとハナーが出現しない構成である。そのため、HPにアクセスしてもハナー広告に気付くことは殆どなく、広告主にとっても費用対効果が望めない。このような状況は、本取組を開始する際に修正すべき事項であり、さらに、H24年度1年間のみ広告掲載依頼がなされた際、なぜ1年間のみ要因分析を行えば気付いたであろう。これらの点からも取組姿勢に疑念を感じる。最終年度になり、HPデザイン変更を手がけるようであるが、この間の外部評価コメントを再読し、真摯に対応されることを期待する。	石原・功刀	
106	⑫	健康部	食肉衛生検査所健康増進課	余熱利用施設の集客力アップ策による使用料収入増などの自主財源確保	A	妥当	妥当	○	妥当		D	要検討	要検討	○	(委員1) ・プール利用者の伸び率向上のために展開する具体的な手立てを検討する必要がある。  (委員2) ・H26年度からの取組内容再編のため、5年間の総括が困難である。取組1に関しては、広報活動による効果が順調に認められ、妥当な成果が得られていると評価できる。今後は、プール利用者増に特化した広報戦略が期待される。取組2に関しては、実施手法等が取組1と全く異なるため、自主財源確保という行革実施の中で、一括運用・評価はかえって各取組個別の課題を不透明化する疑念が生じている。ただし、当初目標の達成度を判断基準とするならば、要検討と評価すべきであろう。	石原・功刀	
107	⑫	環境部	業務課	クリーンカレンダー等への有料広告掲載など	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・HPのハナー広告とは異なり、媒体自ら移動をし市民の目に触れる動きをすることの効果把握し、戦略的な広告獲得の方策を検討することが望まれる。HPへのハナー広告獲得を展開している部課との連携により、面白いアイデアが生まれるかもしれない。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・事業等のくくりとして非常に小さくくりになっているので、他の取り組みとまとめて評価の対象としてはどうか。  (委員2) ・ごみ収集車は必要不可欠な市民サービスを担っており、本来もっと良いイメージを持つべき存在である。この際、イメージアップを図る方策をまずは検討する過程で、広告掲載獲得の戦略を検討するという発想の転換も必要ではないか。イメージアップの具体策には市内外へのアイデア募集も有効な手法ではないか。	石原・功刀	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					外部評価					外部評価							
					内部評価	委員1	委員2	相違	外部	コメント	内部評価	委員1	委員2	相違			コメント
108	⑫	産業部	競輪事務所 みなど振興課	競輪のホームページへのバナー広告掲載など	A	妥当	要検討	×		(委員2) ・HPのバナー広告については、目標額を達成しているが次年度の継続が不確定な様相であり、広告主に対する費用対効果に関する説明不足が推測される。また、自販機設置の目標値が入札とは言えここ数年と比較して安価に抑えられている理由の記載が必要である。	A	要検討	妥当	×	(委員1) ・評価体系として非常に小さい内容になっているので、他の取り組みと統合することが必要ではないか。  (委員2) ・当初の取組手法であるHPのバナー広告については、当初目標額を達成してはいないが、徐々に成果を得ていることは評価できる。バナーの位置もHP上では効果的な位置であり、より多様な業種への営業展開が望まれる。また、自主財源確保という視点から、新規取組へと展開する判断と行動が必要である。今後は、年度ごとの成果に安定性が確保されるよう検討が必要であろう。	石原・功刀	5
109	⑫	総合動植物公園部	動植物公園	総合動植物公園のイベント企画等による自主財源の確保	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・当初の取組手法であった有料広告掲載や物販の成果は伸び悩んでいるが、施設本来のイベント企画による収入は順調に増加しており、評価に値する。	A	妥当	妥当	○	(委員2) ・施設本来の機能や特色を活かした方策により自主財源確保を達成している取組は評価できる。来園者ニーズを的確に把握し、効果的に対応することが今後も望まれる。当初の取組手法であった有料広告掲載や物販の成果は現状伸び悩んでいるが、オリジナルグッズの内容等、今後の再検討が期待される。	石原・功刀	
110-1	⑫	総合動植物公園部	自然史博物館	自然史博物館などのホームページへバナー広告掲載など	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員2) ・現状で広告掲載している企業は、アクセス層が興味を持つ企業とも思えず、この間の取組推進に対する姿勢に疑問を感じている。企業訪問の際の戦略的誘致内容の記載が望まれる。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・バナー広告全般に広告主が少ない状況で、今後この事業の在り方については、抜本的に再検討すべきである。特に豊橋市にとっての費用対効果を吟味すべきではないか。  (委員2) ・自主財源確保の観点からの取組であれば、バナー広告というある意味お手軽な方策に頼るのではなく、施設本来の方策も検討すべきではないか。欧米では、博物館や美術館への寄付は企業メセナやCSRの対象として盛んである。社会の経済状況に左右される方策ではあるが、広告収入も同様なリスクを含んでいる。また、有料イベント開催等施設本来の機能に基づく財源確保も、新規方策として検討すべきではないか。	石原・功刀	
110-2	⑫	教育部	図書館 生涯学習課 美術館 科学教育センター	中央図書館などのホームページへバナー広告掲載など	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・今後の展開に具体策がない。このままでは大きな進展はないと考えられるのではないかと。  (委員2) ・広告代理店の営業努力により目標達成が出来たことは、評価の対象ではないと判断する。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・バナー広告全般に広告主が少ない状況で、今後この事業の在り方については、抜本的に再検討すべきである。特に豊橋市にとっての費用対効果を吟味すべきではないか。  (委員2) ・あくまでもバナー広告での取組を貫くのであれば、各施設のHPデザインの再考から始めるべきであろう。バナーの位置がいずれもトップ画面にないため、アクセス層の目に付きがたい状況を改善しない限り、広告掲載の費用対効果が認識されないであろう。自己評価でも述べているように、HPのデザイン再考も魅力改善に繋がるので、早急の行動が望まれる。	石原・功刀	
111	⑬	財務部	財政課	使用料、手数料の全庁的な見直し	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員2) ・消費税の上乗せ分は利用者にとっては負担になるが、受益者負担は止むを得ない。10%になっても粛々と実行すべきと考える。	伊藤・大久保	
112	⑬	文化市民部	文化課 市民協働推進課	文化施設の利用料金の見直しなど	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・一律に利用料金を設定するのではなく、地域や築年数によって設定してはどうか。校区市民館について、新しく建て替えられた館は少し割高に頂戴しても良いと考える。	B	妥当	妥当	○	(委員2) ・前芝校区市民館における「有料使用制」を支持します。適正料金の設定がられないように計算式を作ることが出来るかと良いですね。	伊藤・大久保	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					内部評価	外部評価				内部評価	外部評価						
						委員1	委員2	相違	外部		コメント	委員1	委員2	相違			コメント
113	⑬	健康部	健康政策課 生活衛生課	看護専門学校の授業料、受験料、入学金などの見直し	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員2) ・動物愛護の観点からも啓発推進の強化をお願いしたい。	伊藤・大久保	
114	⑬	健康部	健康政策課 健康増進課 こども発達センター	歯周病検診などの自己負担額の見直し	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員2) ・予防医学の視点は重要なポイント。必要性を理解してもらう努力が不足している。検診の有効性を納得すれば有料化されても受診率が大きく落ち込むことはないと思う。歯周病は虫歯治療や歯石除去治療の折にチェックしてもらえるので、「検診」の必要性を余り感じないのではないか。有料化しても影響はそれ程ないと考える。	D	妥当	要検討	×	(委員2) ・子どもの予防接種は原則無料。成人については有料化の方向で、聖域を設けず協議したい。インフルエンザの予防接種費用4280円は高いのではないかと。自由設定なので、もっと安くなるはずと考える。	伊藤・大久保	1
115	⑬	環境部	環境政策課	ごみの減量化に向けた経済的手法の導入など	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・指定ごみ袋制度の実施に向けて、市民の理解が得られるように、まさに丁寧な説明をしていただきたい。 (委員2) ・27年度に指定ごみ袋制度が実施されるのはある意味喜ばしい。段ボール等、資源ごみの混入抑制につながると期待している。雑誌も資源であるので、この際、分別して出すことをもっと強化することを同時進行で進めて行きたい。	D	妥当	要検討	×	(委員1) ・有料化に向けて、5年間の成果に示されるように一歩ずつ進めていただきたい。 (委員2) ・減量をしていくためには、強い意志が必要。誰かが嫌われ役にならない限り、進まない。役所の姿勢が試されている。やるなら徹底してやるべき。生ごみへの言及が消えているが、どうするのか。明記してほしい。	伊藤・大久保	1
116	⑬	産業部	商工業振興課 農業支援課	各種研修受講料など自己負担額の見直しなど	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・研修内容の更なる検討をしていただきたい。 (委員2) ・必要かつ有意義な講座、研修であれば自ずとお金を払っても受講者が集まるはず。中小企業向けの研修は特に、目的をはっきりさせる必要があるのではないか。内容も含めて再構築してほしい。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・研修内容の検討に注力していただきたい。 (委員2) ・何のための誰のための事業なのか。基本に返れば方策も見えてくる。	伊藤・大久保	
117	⑬	建設部	住宅課	市営住宅の施設使用料の見直しなど	D	妥当	妥当	○	妥当		D	妥当	妥当	○	(委員2) ・駐車場利用に関しては受益者負担は当然と考える。多寡の判断はあるにしても、基本的には、全戸有料を前提に実施する。	伊藤・大久保	
118-1	⑬	総合動植物公園部	動植物公園 自然史博物館	総合動植物公園の駐車場使用料の見直しなど	D	要検討	妥当	×	(要検討)	(委員1) ・大型映像観覧料の目標達成に向けて、今後の展開に記載されているように見直しを実施していただきたい。 (委員2) ・大型映像観覧料の落ち込みが激しい。駐車場についてはこれまで無料であったことを考えると、目標額は下回ったとはいえ、健闘したと考える。	A	要検討	要検討	○	(委員1) ・今後に向けた課題を具体的に進めていただきたい。 (委員2) ・駐車場利用収入という新たな財源の効果は認められるが、従来ある施設の利用向上という課題はそのまま残っているためA評価は高すぎる。大型映像については入園料とのセット割りを導入すれば必ず利用するのではないか。その際には間断なく上映されるように利便性を上げる必要もあると考える。	伊藤・大久保	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度						5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					外部評価						外部評価						
					内部評価	委員1	委員2	相違	外部	コメント	内部評価	委員1	委員2	相違	コメント		
118-2	⑬	教育部	教育政策課 生涯学習課 科学教育センター	プラネタリウム観覧料などの見直し	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・地区市民館利用料収入の目標額と達成額との差額について、主な理由と今後の計画を見直していただきたい。  (委員2) ・高齢者セミナーは人気のあるものに絞って実施するの一案。低料金で実施しても、利用者のニーズが分散しているように思われるので、1テーマで定員を確保することはより難しくなると考える。	D	要検討	要検討	○	(委員1) ・公営児童クラブの負担のあり方の再考をしっかりとしていただきたい。  (委員2) ・プラネタリウム観覧と星空観察会をセットで行う機会もあると良いと思う。理科の授業や高齢者セミナーにも利用できないか検討したい。高齢者セミナーは市が実施しなくてもそれぞれの希望に沿った民間の講座に参加してもらってはいかがか。市がやるなら市の施設を最大限活かすような市でなくてはできないようなセミナーを実施する。	伊藤・大久保	
118-3	⑬	こども未来部	こども家庭課	公営児童クラブ利用料などの見直し	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・3、4の事業に絞って考えれば、内容は妥当と考えるが、4において「適正」の意味は多様なので、利用料の記載を求める。	B	妥当	妥当	○	(委員2) ・児童クラブの利用料の負担増と受講料の有料化により目標額を達成しているため、3、4事業におけるB評価は妥当と考える。	伊藤・大久保	
119	⑭	財務部	資産経営課	公共施設マネジメントの強化	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・住民サービスの観点からは整理される施設が増えるのは痛手だが、老朽化に伴う整理は止むを得ないと考える。残すと判断した施設の保全も大変な作業になると推察するので、しっかり実施してほしい。	B	妥当	妥当	○	(委員2) ・施設の整理、保全の意識は職員に必要な観点である。次期プランでは初年度だけでも良いので、もう少し対象者を広げて研修を実施してほしい。	伊藤・大久保	
120	⑭	財務部	財政課	市債残高の縮減	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員2) ・計画における減額は達成出来ていると考える。しかし、借金は借金なので「健全な」財政という観点からは財源不足による臨時財政対策債が増えているという課題コメントは気がかりである。	伊藤・大久保	
121	⑭	財務部	財政課	繰上償還（借換）の実施	—	—	—	○	—		B	妥当	妥当	○		伊藤・大久保	
122	⑮	総務部	行政課 人事課 情報企画課 選挙管理委員会	旅費などの執行経費の効率化と事業の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・カラーコピーは確かに見やすいのだが、紙使用削減、データ化といったテーマはどこへ行ってしまったのか。コスト削減以前の問題と考える。この点は要検討。	A	妥当	妥当	○	(委員2) ・120%を上回る成果が数字としてあるので、今期5年計画としてのA評価は妥当。しかし、同時に課題も認識しているので次期はより踏み込んだ計画を立てて下さい。	伊藤・大久保	
123	⑮	総務部	情報企画課	情報システムの全体最適化の推進	D	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○	(委員2) ・システムの最適化の観点からは予定通り実施されているので、効果を認める。しかし、改修費用が増加している面もあるので、胸を張ってのA評価は認めづらい。安価良質の道を引き続き模索されたい。	伊藤・大久保	
124	⑮	財務部	資産経営課 市民税課 資産税課	公用車台数の見直しなど事業の見直し	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員2) ・5 交際費について。記念品はどこで配るのか。これは必要なのだろうか。もらっても、喜んで利用できる品物とは思えない。	B	妥当	要検討	×	(委員2) ・このシートが経費削減が目的であるならば、公用車について、購入ではなく、必要に応じて借りるシステムもある。検討して割安に利用できるのであれば導入してもよいのではないだろうか。E-taxの利用は余り進んでいないように思う。拡大も視野に要検討とする。	伊藤・大久保	2
125	⑮	財務部	契約検査課	公共工事の適正かつ効率的な執行管理と職員の技術力の向上	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		伊藤・大久保	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度						5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					内部評価			外部評価			内部評価			外部評価			
					委員1	委員2	相違	外部	コメント	委員1	委員2	相違	コメント				
126	⑮	企画部	政策企画課 広報広聴課 秘書課	広報活動経費の効率化など事業の見直し	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員2) ・5 交際費について。記念品はどこで配るのか。これは必要なのだろうか。もらっても、喜んで利用できる品物とは思えない。	D	妥当	要検討	×	(委員2) ・5 記念品は廃止してはいいか。8 ホームページのリニューアルが管理運営費の縮減につながっているのかわかりづらい、疑問に思う。	伊藤・大久保	1.5
127	⑮	企画部	政策企画課	大学連携補助金の適正化など補助金、負担金の見直し	A	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○	(委員1) ・事業効果に見合った補助金、負担金とするべきである。なお、市にとって有益な調査研究は積極的に大学を活用した方が良いと思われる。	諏訪・村松	
128	⑮	文化市民部	安全生活課 多文化共生・国際課	交通安全関係事業など事業の見直し	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員1) ・目標額もさることながら、事業手法の見直しが必要である。 (委員2) ・防犯には啓蒙も重要なこと。削減することに走らないようにすることも必要。	D	要検討	妥当	×	(委員1) ・各事業の目的と必要性を再認識した上で、手法の再検討が必要である。	諏訪・村松	1
129	⑮	文化市民部	安全生活課 国保年金課 市民協働推進課	防犯関係負担金など補助金、負担金の見直し	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員2) ・防犯灯はあるものの全体的に暗い。せめて通学路の照明だけでも明るくして安全を確保することも考えて欲しい。	B	妥当	要検討	×	(委員1) ・事業の目的と必要性を再認識する必要がある。 (委員2) ・地域の安全安心を考え、削減に取り組んで欲しい。	諏訪・村松	2
130	⑮	福祉部	福祉政策課 国保年金課 長寿介護課 障害福祉課	施設運営費の効率化など事業の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・目標額は妥当であるが、内容が伴っているかが問題である。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・各事業のレベルが必ずしも一定ではないので、一概に論じ得ないが、国保会計への繰り出し金の見直しは保険税すなわち市民生活に拘わるのでよく議論すべきである。	諏訪・村松	
131-1	⑮	福祉部	福祉政策課 長寿介護課	各種団体等への補助金、負担金の見直し	A	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員1) ・今後は期限を設定するなどの方策が必要と考える。	諏訪・村松	
131-2	⑮	こども未来部	保育課	各種団体等への補助金、負担金の見直し	C	要検討	要検討	○	要検討	(委員2) ・人件費補助金積立率を10%見直して目標達成と判断することが理解し難い。	A	妥当	要検討	×	(委員1) ・今後は期限を設定するなどの方策が必要と考える。 (委員2) ・人件費補助金積立率を10%見直して目標達成と判断することが理解し難い。	諏訪・村松	4
132	⑮	健康部	健康政策課 健康増進課 こども保健課 食肉衛生検査所 こども発達センター	予防接種事業の効率的な実施など事業の見直し	B	要検討	要検討	○	要検討	(委員2) ・単年度での計画である。達成とは考えられない。実施に至らなかった原因を分析して欲しい。 ・努力されていることは理解するが、何をもちて計画達成か？	B	妥当	要検討	×	(委員1) ・引き続きの努力が必要と考える。 (委員2) ・目標設定の理解ができない。	諏訪・村松	4

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度						5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					内部評価	外部評価					内部評価	外部評価					
					委員1	委員2	相違	外部	コメント	委員1	委員2	相違	コメント				
133	⑮	健康部	健康政策課 子ども保健課	障害児自立支援医療給付事業など補助金、負担金の見直し	D	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・努力はしているものの、目標額は満たないが、引き続きの努力が必要。	D	妥当	妥当	○	(委員1) ・引き続き地道な努力を。  (委員2) ・課題の分析と今後の進め方が明確になっている。少しずつかもしれないが今後の効果に期待したい。	諏訪・村松	
134	⑮	環境部	環境政策課 環境保全課 業務課	ペットボトルの拠点収集の廃止など事業の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○	(委員2) ・監査結果の不適合項目が気になる。	諏訪・村松	
135	⑮	環境部	温暖化対策推進室 廃棄物対策課	浄化槽設置費補助金など補助金、負担金の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○	(委員2) ・目標設定と成果との関連は？補助件数を増したことは評価するが”A”の評価に疑問を持つ。	諏訪・村松	
136	⑮	産業部	産業政策課 商工業振興課 農業支援課	市民ふれあい農園の効率的な運営など事業の見直し	C	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○	(委員1) ・経費削減のみでなく、それぞれの事業目的、役割を再確認して進めること。  (委員2) ・目標を立て、不成立もある中で”A”は疑問。 <例>主な手法 不要な駐車場→交渉進まず無し	諏訪・村松	
137	⑮	産業部	産業政策課 商工業振興課 農業企画課	TMO支援事業など補助金、負担金の見直し	D	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・住民との折衝もあり、市のイメージを与える組織として今後を見守りたい。	D	妥当	妥当	○	(委員1) ・経費削減のみでなく、それぞれの事業目的、役割を再確認して進めること。  (委員2) ・住民との折衝もあり、市のイメージを与える組織として今後を見守りたい。	諏訪・村松	
138	⑮	建設部	土木管理課	道路台帳のデジタル化による効率化など事業の見直し	D	妥当	妥当	○	妥当		D	妥当	妥当	○	(委員1) ・道路台帳等の整備の重要性とシステム化に要する経費は別であることを再認識すること。  (委員2) ・時間を要する取組と見ている。引き続きの取組として期待している。	諏訪・村松	
139	⑮	都市計画部	公園緑地課	苗ほ管理事業など事業の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○		諏訪・村松	
140	⑮	都市計画部	都市交通課 公園緑地課 まちなか活性化課	豊橋みどりの協会補助金など補助金、負担金の見直し	D	要検討	要検討	○	要検討	(委員2) ・高齢化社会を迎え、バスサービスは不可欠と考えたい。補助金の質を考えると負担金はやむをえないのではないのか。	D	妥当	要検討	×	(委員1) ・各事業内容の目的を再確認しながらすすめていくこと。  (委員2) ・高齢化社会を迎え、バスサービスは不可欠と考えたい。補助金の質を考えると負担金はやむをえないのではないのか。	諏訪・村松	5
141-1	⑮	防災危機管理課	防災危機管理課	防災無線等の維持管理経費の効率化など事業の見直し	D	妥当	妥当	○	妥当		D	妥当	妥当	○	(委員1) ・削減額の努力をする一方で、事業の目的を常に確認しながらすすめていくこと。  (委員2) ・成果（数値）だけではない。努力されたことを評価したい。	諏訪・村松	
141-2	⑮	消防本部	(消)総務課 通信指令課	消防車両等の維持管理経費の効率化など事業の見直し	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員2) ・維持管理のための費用は安全のために必要である。配慮した上での削除であってほしい。	A	妥当	妥当	○	(委員1) ・削減額の努力をする一方で、事業の目的を常に確認しながらすすめていくこと。  (委員2) ・数字については納得した。	諏訪・村松	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度					5年間の総括					外部評価者	要検討分類	
					内部評価		外部評価			内部評価		外部評価					
					委員1	委員2	相違	外部	コメント	委員1	委員2	相違	コメント				
142-1	⑮	防災危機管理課	防災危機管理課	自主防災組織の活動資機材等整備などの補助金、負担金の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当		B	妥当	妥当	○	(委員1) ・事業の目的を常に確認しながらすすめること。	諏訪・村松	
142-2	⑮	消防本部	予防課	街頭消火器補助事業など補助金、負担金の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当		A	妥当	妥当	○	(委員1) ・この事業の重要性からみて、金額のみの見直しは如何か。目的を再確認しながらすすめること。	諏訪・村松	
143-1	⑮	総合動植物公園部	自然史博物館	自然史博物館の維持管理経費の効率化など事業の見直し	D	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・成果に記載されている記載の意味がよくわかりません。使用料は増加するも、使用量は削減というは可能なのでしょうか？ (委員2) ・必要な電気使用量の設定は省エネタイプ等の機器に更新されるとか、検討される必要があるのでは	D	妥当	妥当	○	(委員1) ・経費削減はこれまでもかなりされているであろうから、これ以上の削減が困難なのであれば、取り組み項目を変更することも考えられます。 (委員2) ・必要な電気使用量の設定は省エネタイプ等の機器に更新されるとか、検討される必要があるのでは	世羅・富田	
143-2	⑮	教育部	美術博物館 保健給食課	学校給食配送車の維持管理経費の効率化など事業の見直し	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・指名競争入札を行って経費削減していることは、根本的な問題解決ではないと感じますが、数値目標を達成していることで妥当としました。	A	妥当	妥当	○	(委員1) ・経費削減の余地を十分に検討して、次のプランの取り組み項目にするか否か検討する必要があります。	世羅・富田	
144	⑮	教育部	学校教育課 生涯学習課	小中学校の補助金など、補助金、負担金の見直し	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・肅々と進められていると感じます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・これ以上の補助の見直しができるか否かを検討して、次のプランの取り組み項目にするか検討してください。	世羅・富田	
145	⑯	市民病院	管理課	医療スタッフの確保 ○優秀な人材の育成 ○医療スタッフの処遇改善、負担軽減 ○専門スタッフの確保	B	要検討	妥当	×	(要検討)	(委員1) ・定数管理が目標となっていますので、予算定数に達していないとあるので、要検討としました。定数管理の人数と比べてどうなのかの記載が必要と思われます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・社会的に特に問題となっている事項ですので、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。	世羅・富田	
146	⑯	市民病院	管理課 医事課	高度専門医療の充実 ○がん拠点病院の機能充実 ○患者にやさしい治療の推進 ○救急医療の充実 ○周産期医療の充実	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・高度専門医療が進んでいる状況がわかります。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・このような取り組みに関しては、患者数というものを目標数とすることは適当でないと考えます。患者数をコントロールすることはできないので、受け入れ体制がこれだけある、というような目標設定をされたほうがいいと考えます。	世羅・富田	
147	⑯	市民病院	医事課 医療情報課	地域連携の推進 ○地域の医療機関との連携強化 ○地域医療連携ネットワークシステムの構築	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・地域連携が進んでいる状況がよくわかります。	A	妥当	妥当	○	(委員1) ・特にありません。	世羅・富田	
148	⑯	市民病院	管理課	災害対応の強化 ○災害に強い施設の構築 ○災害用備蓄品の整備 ○定期的な災害対応訓練の実施	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・災害対応ができていますと考えられます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・特にありません。	世羅・富田	

書類評価結果（取組項目別）

※要検討の分類 1：目標を達成しておらず、かつ今後見直しが必要と考えられるもの 2：目標は達成しているものの、今後見直しが必要と考えられるもの 3：達成度評価（A・B・D）に対して問題があると考えられるもの  
 4：目標値（指標）の設定に問題があると考えられるもの 5：その他（説明不足など）

No.	重点項目	部局(H27)	所管課(H27)	取組内容	26年度						5年間の総括					外部評価者	要検討分類
					内部評価	外部評価					内部評価	外部評価					
						委員1	委員2	相違	外部	コメント		委員1	委員2	相違	コメント		
149	⑩	市民病院	管理課 医事課 医療情報課	効率的・効果的な病院運営の推進 ○ベンチマーク分析の活用等による経費の節減 ○環境負荷削減への取組 ○未収金対策 ○診療データの活用 ○適正な施設運用	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・評価は妥当と考えますが、薬品費が当初5百万円の削減予定だったものが21百万円も削減できたということについて、理由の記載が必要と考えます。	A	妥当	妥当	○	(委員1) ・特にありません。	世羅・富田	
151	⑩	上下水道局	浄水課 下水道施設課	環境への配慮 ○省エネルギーの推進 ○資源の有効活用	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・順調に進んでいると考えられます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・数値的な目標がもう少しあれば、よりわかりやすいと思います。	世羅・富田	
152	⑩	上下水道局	給排水課	広報広聴活動の推進 ○お客さまニーズの把握 ○広報活動の推進 ○貯水槽水道の適正管理	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・アンケートを実施されているので、その結果を集計分析した結果などで満足度を図ることは困難でしょうか？  (委員2) ・地道な広報活動が評価できます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・アンケートを実施されているので、その結果を集計分析した結果などで満足度を図ることは困難でしょうか？  (委員2) ・地道な広報活動が評価できます。	世羅・富田	
153	⑩	上下水道局	給排水課	下水道の普及促進 ○水洗化率の向上 ○浄化槽の雨水貯留施設転用の推進	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・努力されて数値が向上している状況がよくわかります。ただ、同じ地域であるにもかかわらず、H24は80.9%、H25は42.7%で、H25は69.8%と増減している理由がよくわかりません。水洗化率ですので、毎年段階的に上がっている指標だと思っています。	B	妥当	妥当	○		世羅・富田	
154	⑩	上下水道局	料金課 給排水課	お客さまサービスの充実 ○給水申込窓口業務の充実 ○料金窓口業務の充実	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・効果があがっている様子がわかります。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・引き続き、満足度向上に取り組んでいただければと思いますが、満足度を指標にできればなおわかりやすいです。	世羅・富田	
155	⑩	上下水道局	(上下) 総務課	組織の効率化と人材育成 ○効率的な業務執行体制の確立 ○技術の継承と職員研修の充実	A	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・効果としては問題ありませんが、包括委託を行ったことにより、業務に対する新たな問題や課題があれば、それに対する対応も必要となります。	A	妥当	妥当	○	(委員1) ・包括委託の影響について留意して、目標設定を行っていただければと思います。	世羅・富田	
156	⑩	上下水道局	(上下) 総務課 料金課	経営基盤の確立 ○財務基盤の強化 ○水道料金及び下水道使用料収入の確保 ○資産の有効活用	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・財政状態に関する健全性や収益性については問題ないものと考えます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・総務省でも公営企業に関する経営戦略の策定を強く言われていることから、新たに設定された指標なども勘案しながら、今後の維持更新に耐えられるようにしなければなりません。そのような観点を取り組み目標に入れていただければと思います。	世羅・富田	
157	⑪	総務部	行政課	改革の取組に関し外部視点を導入したオープンな形の検証実施	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・非常に効果のある取り組みと考えております。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・委員会のなかで議論できればと思います。	世羅・富田	
158	⑪	財務部	財政課	わかりやすい財政状況、財務諸表の公表	B	妥当	妥当	○	妥当	(委員1) ・いろいろ考えられて取り組んでおられると感じます。	B	妥当	妥当	○	(委員1) ・予算決算を報告すべき議員さんからの意見を徴収しながら、取り組み内容や取り組み目標を設定することも考えられます。	世羅・富田	